

## ■ 前回のおさらい

- ワンヘルスとは、人と動物の健康と環境の健全性を一体的に守ろうとする取組。
- 福岡県は、全国で初めてワンヘルスの推進を掲げた条例を制定するとともに、推進行動計画を策定した。
- 「7つの柱」を設定し、柱ごとに取組事項・様々な施策を展開している。

今回から、「7つの柱」の解説をしていくよ！



## 柱 1 人獣共通感染症対策



人獣共通感染症とは、人と人以外の動物で感染・伝染する、人と動物に共通の疾病または感染症のことで、新型コロナウイルス感染症のほか、SARS、MERS やエボラ出血熱なども人獣共通感染症の一つです。近年猛威を奮っている新型コロナウイルス感染症をはじめ、最近になって発見された新しい感染症（新興感染症）は、多くの人が免疫を持っておらず、治療法が確立していないものが少なくありません。また人や物の移動の高速、大量化に伴い、病原体が短期間で世界中にまん延する可能性も高くなっています。人と動物、そして環境の健全性を守るために、医療、獣医療をはじめ各分野の関係者が連携しての感染症の発生予防や、まん延防止対策を推進していきます。

### 取組事項

1. 発生予防（平時の対応）
2. まん延防止（患者発生時の対応）
3. 動向調査、監視
4. 研究開発、創薬
5. 普及啓発



### 主な施策

- 感染症発生動向調査体制の整備
- 医療提供体制の充実
- 感染症の調査研究
- 家畜伝染病予防対策
- 狂犬病予防対策
- 感染症の発生動向の調査・分析
- ◎ 愛玩動物の病原体保有状況調査 
- ◎ 野生動物における SFTS 感染状況調査 
- 次世代医薬品の研究開発の推進



### 重点施策（特に力を入れて取り組んでいる施策）をご紹介します！

#### ○ 愛玩動物の病原体保有状況調査

県内における人獣共通感染症の発生状況を把握し、人に感染した場合の迅速な診断につなげることを目的として、最も身近な愛玩動物である犬や猫を対象に、人獣共通感染症の病原体の保有状況調査を実施しています。結果については公開し、ペットとのふれあい方や健康管理などについて普及啓発しています。

#### ○ 野生動物における SFTS 感染状況調査

西日本を中心に感染者報告数が年々増加傾向にあり、本県においても死亡例が確認されている人獣共通感染症の「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」について、感染拡大の要因の1つとして考えられる野生動物（シカ、イノシシ、アライグマ）を対象に、SFTS ウイルスの感染状況を調査します。この調査結果に基づき、市町村、医療機関、県民などに対する情報提供や注意喚起を行います。